

平和実現 思いはせる

県内高校生ら手がける

仙台七夕まつり（6～8日）の期間中、仙台市宮城野区の宮城野通では県内の高校生らが平和を願い作った3種類の七夕飾りが風に揺られている。参加者にはウクライナからの避難民もいて、世界平和や環境問題の解決といった願いをデザインに反映させた。

仙台ユネスコ協会が、仙台駅東口商工事業協同組合の協力を得て、榴岡1丁目の松栄不動産前に展示。ユネスコ協会の呼びかけに応じた仙台育英高と多賀城高の有志ら約20人が6月から毎週土曜に集まり、デザインから制作まで手がけた。

七夕飾りは3種類。ハー

トの付いた7色の吹き流しに地球を模したくす玉を付けた仙台育英高2年鈴木新也さん(17)は「ウクライナ国旗の色を使おうという意見もあったが、戦争や内戦は世界中で起きている。地球全体が平和になってほしいというみんなの願いを込めた」と説明した。

海面上昇で国土水没の危機にあるキリバスと交流のある多賀城高の有志は、キリバスの国旗を想起させる青色と白色の吹き流しに赤色と黄色のくす玉を組み合わせた。3年若生蒼輝さん(18)は「キリバスの現状や文化にも思いをはせてほしい」と願った。

吹き流しに祈り込め

仙台七夕まつり開幕

(1・20面に関連記事)

七夕飾りや短冊作成に協力した高校生たち。右奥の吹き流しが「平和祈念七夕」

